

## 平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	管理会計論B (Management Accounting B)		授業コード	E009151
担当教員名	橋本 堅次郎、工藤 順一		科目ナンバリングコード	E30607
配当学年	3	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	できるだけ毎日新聞を読んで、企業の経営関連の記事に目を通してほしいと思います。			
受講心得	将来の就職に備え、実践で活かそうという気持ちで受講してください。			
教科書	最初の講義で指定します。			
参考文献及び指定図書	1 稲盛和夫著「稲盛和夫の実学」日本経済新聞社 2 金児昭「教わらなかった会計」日本経済新聞社 3 大野耐一著「トヨタ生産方式」ダイヤモンド社他			
関連科目	経営学入門、簿記入門、原価計算論、管理会計論A、財務管理論			

授業の目的	管理会計論Aでは「会計数値と業務」の関係について学んできましたが、管理会計論Bでは「会計数値と経営」との関係について勉強します。この会計数値と経営を学ぶことは、将来、金融機関への就職を考えている学生だけでなく、公務員やその他の業界に就職したいと考えている学生にとっても大切なことです。というのは、経営の成果は最終的に決算数値で評価されるからです。いくら頑張っても仕事をしても会計の数値に表れないと会社は倒産の憂き目に遭います。もちろん数値が全てではありませんが、数値をよくすることは、会社存続の必須条件です。この講義ではそれらの考え方を学んでいきます。
授業の概要	管理会計論Bでは、最初に財務会計と管理会計の異同を学習し、続いて管理会計論の範囲を見ていきます。そして事例等を取り上げながら、管理会計のシステムだけではつかめない、数値の裏側にある「業務の実態」について数値から読み解いていき、コストを下げるためにはどうすべきかをトヨタ生産方式等で学習します。そうした中で、将来、皆さんが経営者になったときに、経営資源である「ヒト、モノ、カネ、情報」をいかに使い、目標となる数値を達成していくかを考えることが重要です。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：財務会計と管理会計</b> 最初の講義では、まず財務会計と管理会計の異同について学習します。その上で、管理会計論の占める範囲を見ながら、管理会計が経営全体に果たす役割を学習します。	配布資料 課題とその解説
<b>第2週：会社の実態を知る</b> 会社の実態をつかむために会社のどこをどう見るかを事例を用いて学習します。たとえば、会社の玄関や倉庫等のハードの管理が会社経営とどうつながっているか、また、リースを採用している会社と資産を購入している会社やレンタルを採用している会社とを比較しながら、会社の実態をつかむにはいかにしたらよいかを学んでいきます。	配布資料 課題とその解説
<b>第3週：売上と経費の関係を知る</b> 決算書に計上されている売上の数値は何を意味し、経費は何を意味しているのか、会社の利益を伸ばすためには売上と経費をどうしたらよいか等を学習します。	配布資料 課題とその解説
<b>第4週：筋肉質の会社経営</b> 利益を上げることは会社の存続にとってとても大切なことですが、その利益の本質は何か、固定資産への投資はいつどのくらいの規模でするものなのか、会社と人を守るとはどのような経営をすることかを会計を通して学習します。	配布資料 課題とその解説
<b>第5週：コスト削減とトヨタ生産方式の概要</b> 売上を伸ばしても経費と一緒に上昇したのでは、会社の利益率は変わりません。そこで、いかに経費を抑えていくかを「トヨタ生産方式」を見ながら学習します。今回は、トヨタ生産方式の概要を学習します。	配布資料 課題とその解説
<b>第6週：トヨタ生産方式の考え方とは</b> トヨタ生産方式におけるコストの削減は、まず「動く、働く、なぜ、目で見える管理」といった言葉の理解から始まります。これらの言葉の理解を通してトヨタ生産方式の考え方を理解します。	配布資料 課題とその解説

<b>第7週：トヨタ生産方式の改善とは</b>		配布資料 課題とその解説
トヨタ生産方式における改善を進めるための「ムダ」の排除を学習します。と言ってもムダが何を意味するのかを理解する必要があります。そこで、どんなムダがありどんな時に生じているかを学習していきます。		
<b>第8週：標準原価計算と標準作業</b>		配布資料 課題とその解説
標準原価計算の目的やその基本的な考え方を学習するとともに、トヨタ生産方式における標準作業を学習します。		
<b>第9週：ジャストインタイムと原価管理</b>		配布資料 課題とその解説
トヨタ自動車の創業者の豊田喜一郎氏の思想である「必要なものを必要なときに必要な分だけ」生産できる仕組みである「ジャストインタイム」について学習します。		
<b>第10週：カンバン方式とその考え方</b>		配布資料 課題とその解説
必要以上のものをつくることは、いろいろな損失を生み出します。そこで、カンバン方式では引き取ったものだけを生産するというルールを作り作りすぎのムダを排除します。これらのカンバン方式について学習します。		
<b>第11週：直接原価計算(I)の①</b>		配布資料 課題とその解説
直接原価計算による損益計算書の作成方法と固定費調整について学習します。今回はまず、全部原価計算と直接原価計算との違いを学習します。		
<b>第12週：直接原価計算(I)の②</b>		配布資料 課題とその解説
設例を用いて、実際に全部原価計算による損益計算書と直接原価計算による損益計算書を作成して比較していきます。		
<b>第13週：直接原価計算の固定費調整</b>		配布資料 課題とその解説
直接原価計算の特徴として、固定製造原価は全額発生した期間の費用となるため、制度会計上、直接原価計算による損益計算書は、営業利益の修正手続きを必要としますので、その理由やその方法を学習します。		
<b>第14週：短期利益計画とCVP分析</b>		配布資料 課題とその解説
短期利益計画のために直接原価計算を利用したCVP分析を学習します。最初に変動費率や貢献利益率といった言葉の意味を学習し、次に損益分岐点の考え方を学習します。		
<b>第15週：財務諸表の作成方法と総括</b>		配布資料 課題とその解説
公企業が採用している財務諸表には、損益計算書と貸借対照表のほかに製造原価報告書があります。これらの財務諸表が製造原価といかに結びついているかを学習します。		
<b>第16週：期末試験</b>		
これまで学習してきた内容についてレポートを含めた試験を行います。		
<b>授業の運営方法</b>	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
<b>備考</b>	レポートをメールで提出していただくことがあります。	

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	① 経営者として、または経理担当者として会社を数値で管理することの意味について理解し報告できる。
<b>【知識・理解】</b>	② 会社を数値で管理するための基礎知識が身についている。 ③ 会社を維持発展するためのコスト削減の諸方策について理解している。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	④ 決算書を見て、その会社の財政状態と経営成績を表現することができる。
<b>【思考・判断・創造】</b>	⑤ 予算編成や事業計画の作成ができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			15点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。	30点			
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	30点		
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		15点		
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	講義の最後に授業内容について課題を出すことがあります。課題が課されたら、かならず提出してください。達成水準の目安は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他 (無形成果)	授業の中で、適宜質問をします。優れた解答をした者は、記録して加点することがあります。